

上島町消防だより

全国火災予防運動

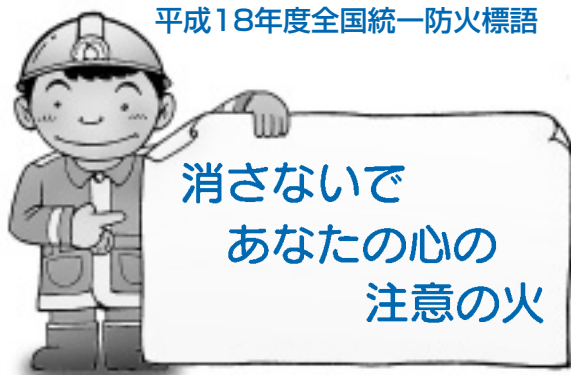
実施中！

秋から冬にかけて、火災が発生しやすい時期を迎え、11月9日から11月15日までの一週間、全国一斉に秋の火災予防運動が実施されます。

これからの季節は暖房器具などを使う機会が多くなりますが、空気が非常に乾燥し、火災の発生しやすい気象状態となっています。火の取り扱いには十分気を付け火災を起こさないようにしましょう。

また、暖房器具を最初に使用するときは、十分に点検をして安全に使用しましょう。

平成18年度全国統一防火標語



あなたはだいじょうぶ？

～暖房器具の使用前

チェックポイント～

暖房器具の活躍するシーズンです。使用する前には必ず点検をしましょう。

《点検ポイント》

- ① 外観に損傷はないか
- ② ほこりや汚れはないか
- ③ 燃料は間違いないか(ガソリン？)
- ④ 古い灯油が残っていないか
- ⑤ 不完全燃焼の原因に
- ⑥ 給油は火を消してから
- ⑦ 引火の恐れもあります
- ⑧ 換気は定期的に行いましょう
- ⑨ (一酸化中毒になることも)
- ⑩ ⑥周囲に燃えやすい物を置かない
- (火災の原因になります)

その他、チェック項目等、「取扱説明書」に記載していることがあるので見直してみてもいかがでしょうか。



11月9日は

119番の日

昭和62年の11月9日より、消防

に対する理解と認識、また、防火防災意識の高揚等を目的として、「119番の日」を定めています。

消防署への通報は、「落ち着いて、ゆっくりと、正確に！」行いましょう。町民の皆さん一人ひとりが、より一層の火災予防を心がけ、火災のない街づくりを目指しましょう。

煙突周囲の点検を！

～管内で火災発生～

上島町管内で、今年に入り、煙突の熱が原因と思われる火災が2件発生しました。

これは「無炎火災」と呼ばれ、煙突が可燃物に直接触れているため、長期の使用で炭化が進み、発煙する現象を言います。

今回のケースは、風呂釜の煙突と壁が密着していたこと、その煙突からの熱を受けて少しずつ壁の内部が熱せられ炭の様になり、着火して火災になったものと思われます。

2件とも、発見が早く、すぐに消火できたため、やや程度で済みましたが、いつ発生するかわかりません。

ご自宅の風呂や家の周りは大丈夫ですか？ お出かけ前、お休み前には火の元を確かめる習慣をつけましょう。



救急救助合同訓練実施

10月2日、

上島町総合庁舎駐車場において、建設現場での転落事故を想定した救急救助合同訓練を実施しました。救急救隊、救急隊の連携活動による迅速な救助活動及び適切な救急処置を実施し、傷病者に対してより良い搬送方法を確認できました。

また、各署員の技術向上に繋がる訓練となりました。今後も訓練を実施し、更なる技術習得を行い、緊急時にも適切な対応ができるよう署員一同努めて参ります。



平成18年の出場件数

	火災	救急
今月	0	32
前年	0	48
前年比	0	▲16
累計	3	334

平成18年9月30日現在

火災・救急 119番

消防本部 77-3166

消防署 77-4118



農業講座

しまなみ農業だより タマネギ栽培のポイント

原産地は中央アジアといわれ、日本には明治初期に入りその後、全国で栽培され始めました。タマネギには「硫化アリル」という特有の臭いと辛味成分があり、血液をサラサラにして血栓を防ぎ、ビタミンB₁の体内利用を向上させる働きがあります。また、殺菌効果があり肉や魚の生臭さを和らげ、日持ちを向上させます。また、加熱すると甘味に変わり色々な料理の味を深め、食材としてよく使われる野菜のひとつです。今月はタマネギの植え付け時期です。栽培のポイントについておさらいをしてみましょう。

■栽培ポイント

西日本では、晩秋に苗を植えつけ、冬を経過して春～初夏に収穫をします。最も大事な栽培ポイントは次のとおりです。

表 タマネギの作型

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	主要品種
極早生		○	△						■			黄鐘、浜育
早生		○		△						■		ソニック
普通		○			△						■	もみじ3号
		○種まき		△定植								■収穫

①適期の種まき、植え付けの時期（作型の表参照）

苗は自分で立てることもできますが、早く種をまいたり早く植えたことにより年内に苗が大きくなり冬の低温に合うと、春先から「ネギ坊主」が発生して球が太らなくなったり、分球が発生しやすくなります。

②多肥と最終追肥の遅れは禁物

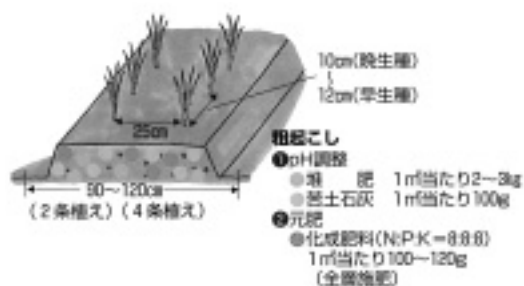
肥料の遅効きは、葉ばかりができて球の肥大を遅らせたり、貯蔵性を悪くしたり、病気の発生を助長します。肥料のやり方で収量や品質に影響します。

■施肥

植え付けの20日前に堆肥（3 kg/m²）と苦土石灰（0.1 kg/m²）を施して粗起しを行います。その10日後に化成肥料を（0.1 kg/m²）を施用後、よく耕して畝立てをします。植え付け後の追肥は、植付の半月後と1月中旬と3月中～下旬の3回、化成肥料（40 g/m²）を株元に施用し軽く土と混ぜます。首の締まったタマネギにするためには3月中に施肥を終わらせることが重要です。

■植え付け方法

苗を植える間隔は、株間を開けると球が大きくなりすぎるので、条間を25cm、株間は早生種で12cm、晩生種で10cmに植えます（図参考）。植え方は、植え付け溝を掘り、苗を前記の間隔に置いて土を埋め戻します。この時に苗が斜めになっても差し支えありません。また、植え付け後のかん水代わりに「過リン酸石灰」500倍をやると活着が早まります。黒マルチを敷いて植えると雑草防除ができます。また、植え付け直後のヨトウムシやタマネギバエによる食害にはダイアジノン粒剤を散布すると被害が軽減されます。



■植え付け後の管理

除草剤の使用は、タマネギが活着し、草が生えるまでに散布します。また、植えた後は根が切られているので植え傷みによる下葉の黄化や1月～2月に葉先が枯れることがありますが、芯の葉がしっかりしていれば心配ありません。土の乾燥による影響と思われるので冬でも雨が少ない時はかん水が必要です。

■病害虫防除

病害虫の発生は、3月以降の葉の成長期、球の肥大期に発生しやすくなります。「べと病」は早めにダコニール1000を1000倍、ジマンダイセン水和剤600倍を予防散布します。特に雨の多い時や肥料が効きすぎて葉が大きい時に発生しやすくなります。また、収穫の直前には、球の腐敗を予防するためトップジンM水和剤1000倍を散布します。球の腐敗は、天気が悪いときに収穫すると増加するので、晴天時の収穫を心がけてください。害虫では、葉が白くかすれてくるネギアザミウマの被害がよく見られます。4月以降にオルトラン水和剤1000倍を散布します。タマネギの葉は、水をはじきやすいので、農薬散布の時には展着剤を加用します。

たまねぎは、冬はほとんど生育しませんが、冬期からの施肥が重要です。やりすぎず、不足させず、加減が難しいですが、4月以降になって球が肥大し始めて、あわてて肥料をやることのないように冬期の管理に重点をおきましょう。